

# 委託事業実施内容報告書

## 平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 特定非営利活動法人

伊勢崎日本語ボランティア協会

#### 1 事業の趣旨・目的

生活に密着したシラバス、教材、指導法を学び、「生活者としての外国人」が直面する課題を解決するための対話中心のテキスト(教材)作りを通して、ボランティア講師のスキルアップを図る事を目的とする。

#### 2 運営委員会の開催について

##### 【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月3日	伊勢崎市民プラザ	ヤン・ジョンヨン 川端一博 本堂晴生 川田武之 桑原典子 高橋和美 桑原宜徳	自己紹介 1「ボランティアを対象とした実践的研修について」 2企画書の目的、目標 3研修会の日程、募集人員 4担当教授者の日程について 5予算について 6参考書の選定 7その他	* 自己紹介 * 現在の伊勢崎日本語ボランティア協会の状況 * なぜ教科書(教材)をつくるか * 教科書づくりのひな型はあるか * 参考図書 * ニーズ、レベル * 伊勢崎市の外国人の特徴 * 外国人児童の問題とその具体例 * 教材作成について * 教材づくりの目的 * 教授技術をあげるには？ * 研修会のすすめかた * その他
7月23日	本庄グランドホテル	ヤン・ジョンヨン 川端一博 桑原典子 桑原宜徳	* 研修の流れ * 参考教材の選択	* 中半から後半にかけての授業展開について * 教材の見本作成 * 教材の分析 * 教材作成の参考教材の選択 * グループ分け等
10月4日	伊勢崎市民プラザ	ヤン・ジョンヨン 川端一博 本堂晴生 川田武之 桑原典子 桑原宜徳	研修会の総括、検討	* 協会より研修会の報告 * アンケートに於ける、研修内容、教材作成の評価、検討、反省 * 今回の研修会の成果をいかに今後の活動にいかすか

## 【写真】運営委員会



### 3 講座の内容について

(1) 講座名 “みんなで教材を作ろう”

(2) 目標

教材分析、地域ニーズ分析、評価方法などについて実地経験に根ざした日本語教育方法を学ぶ。また、それを踏まえたテキスト作りを通してボランティア講師としてのスキルアップを図り、地域の日本語教育支援活動に応用できるようにする。

(3) 受講者の総数 18 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

(出身・国籍別内訳 日本人17名 ブラジル人1名)

(4) 開催時間数(回数)36 時間 (11 回)

講義24 時間 (8回) 実習12 時間 (3 回)

(5) 参加対象者の要件

2年以上の日本語ボランティア活動のある方

(6) 受講者の募集方法

近隣の国際交流協会に募集チラシ(別紙1)を直接配布。伊勢崎国際交流協会、前橋国際交流協会、群馬NPO法人事務局、高崎国際交流協会、玉村国際交流協会等。

<別紙1>

## 平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業（文化庁委託事業）

### ◆受講生募集のご案内◆

NPO 法人・伊勢崎日本語ボランティア協会が平成 23 年度の文化庁企画の「ボランティアを対象とした実践的研修」に採択されました。素晴らしい先生方のご賛同、ご協力を得まして下記日程で研修会を開催する運びとなりました。テーマは“みんなで教材を作ろう！”です。

#### 1. 目的

いま、地域には外国から仕事や国際結婚などでたくさんの外国人の方が来ています。私たちの住んでいる家の周りにもこのような方がたくさんいることはスーパーや道を歩いていてもよく分かると思います。でもこのような外国人の方は日本語が十分ではないため、日本語教室に赴き日本語を覚えようと頑張っています。しかし、ボランティアの立場で考えると、日々の授業準備はあまり容易ではありません。特に、留学生向けの教材を抜粋しているだけでは日常生活での日本語はなかなか扱えなかったのではないのでしょうか。

本研修では、すでに日本語ボランティアをされている方を対象に、日本語教室で使える教材を作成する作業を通して、講師としてのスキルアップを目指します。教材作成と聞くと難しく思えるかもしれませんが、日々の教室活動の中で、プリントを作ったり、チラシを持っていったりすることと何ら変わりはありません。今までやってきたことをもう少し専門的に、あるいは、日本語能力の向上につながるように本研修の担当講師たちがアドバイスします。

#### 2. コンセプト

市販の教材を使っているけれども、“どうもしっくりこない…”と感じたことはありませんか？私たちの暮らす地域には、さまざまな希望をもった外国人の方々が暮らしています。彼らに必要な日本語の力は、そのライフスタイルや地域の事情によって異なるのです。今回の研修では、地域に暮らす外国人の方々のニーズに合わせた、地域密着、トピック中心の教材を講師と一緒に作ります。“一緒に作っていく！”ことが大事ですので、受け身的な講義形式ではありません。皆さんの手で作っていく過程こそが教え方そのものの改善・発展にもつながると思います。積極的なご参加をお待ちしております！

#### 3. 期間・時間

期間： 2011年6月11日(土)～9月3日(土) 全11回

時間： 13:30～16:30 1回～8回(各3時間)

13:00～17:00 9回～11回(各4時間)

#### 4. 場所

伊勢崎市民プラザ（伊勢崎市富塚220-13）

#### 5. 対象

2年以上の日本語ボランティア活動のある方

#### 6. 定員

20名（定員を超過した場合は選考いたします）



## 7. 受講料

無料

## 8. 応募方法

申込書（別紙2）に明記の上、ynk2011@gmail.com まで申し込みをする。

【記入項目】氏名・住所・連絡先・所属・日本語教育歴・資格などの有無  
(担当) 桑原

## 9. 主催

NPO法人 伊勢崎日本語ボランティア協会

### ボランティア養成講座日程（予定）

回	日時	内容
1	6月11日（土）	オリエンテーション
2	6月18日（土）	日本語ボランティアの役割
3	6月25日（土）	教材分析①
4	7月 2日（土）	教材分析②
5	7月 9日（土）	教室活動①
6	7月16日（土）	教室活動②
7	7月23日（土）	評価とは
8	7月30日（土）	学習項目の選定
9	8月 6日（土）	教材作成（1）
10	8月20日（土）	教材作成（2）
11	9月 3日（土）	教材作成（3）

## 10. 担当講師

伊藤健人（群馬県立女子大学 准教授）、川端一博（(財)日本国際教育支援協会 作題主幹）、  
ヤン・ジョンヨン（群馬県立女子大学 非常勤講師）、佐藤あい子（Nippon 語学院 講師）ほか。

<別紙2>

「ボランティアを対象とした実践的研修・参加申込書」

(ふりがな) 氏 名		( )			
勤務先・ 所属団体名				職名 (あれば)	
連絡先	住所	〒 - (自宅・勤務先)			
	電話 番号	( ) -	FAX 番号	( ) -	
Eメール					
日本語指導歴 又は日本語教 室運営関連歴	期 間	活動先、職務・活動内容等			
	年 月～ 年 月				
	年 月～ 年 月				
	年 月～ 年 月				
日本語教育に 関する資格等	(研修等への参加、日本語教育能力検定試験合格、養成講座 420 時間修了など)				
現状の地域日 本語教育にお ける課題につ いて、ご自由 にお書きくだ さい					

- ※ 必要に応じて別紙を使っても結構です。
- ※ いただきました個人情報は厳重に管理し、本講座関連事業以外の用途には使用しません。

(7) 会場

ア 講義 伊勢崎市民プラザ 伊勢崎市富塚町

イ 実習 伊勢崎市民プラザ 伊勢崎市富塚町

(8) 使用した教材・リソース

講義 各講師作成の講座資料

実習 できる日本語 初級 本冊(アルク)、にほんごこれだけ！1(ココ出版)、  
にほんご宝船知恵袋 (アスク出版)、こども にほんご宝島(アスク出版)、  
絵で導入・絵で練習(凡人社)、新文化初級日本語 I (凡人社)

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
6月11日 1:30pm～ 4:30pm	<b>オリエンテーション</b> I 地域日本語教育の課題として出された意見について 課題の整理 (1) どこで・どれくらい 誰が (ボランティア) 誰に (学習者) 何を (教育、学習内容) どうやって (方法) 何のために (目的、目標) 課題の整理 (2) 出来ることできない事、近い将来出来るようになりたい事、いつかはできるようにになりたい事 II 思い出してみよう① あなたが日本語支援をしている (したい) のはどんな人? 思い出してみよう② その人 (学習者) から良く相談される事は?	群馬県立女子大学 非常勤講師 ヤン・ジョンヨン	13人
6月18日 1:30pm～ 4:30pm	<b>ボランティアの役割</b> 日本語学習支援で行うべき事とは “文型 “と”できる事” の対比 1 文型で出来る事とは何か 2 日本語学習支援で行うべき事とは 3 困難な場面や状況に置かれた際の人間の行動パターンは?	群馬県立女子大学 准教授 伊藤健人	11人
6月25日 1:30pm～ 4:30pm	<b>一般的な教材を使った教室活動の実例</b> 新文化初級日本語 1 第 1 2 課 料理教室 第 1 6 課 病院などのイラスト、文型を使っての講義	Nippon 語学院講師 佐藤あい子	12人
7月2日 1:30pm～ 4:30pm	<b>教材分析</b> I その前にコースデザイン 1 コースデザインとは	財団法人 日本国際教育支援 協会	11人

	<p>2 ニーズ分析 3 レディネス分析 4 目標言語調査</p> <p>II コースデザインをしてみよう 1 ニーズとは 2 レディネスとは 3 最初に何を教える？</p> <p>III シラバス・デザイン 1 構造シラバス 2 機能シラバス 3 場面シラバス 4 トピックシラバス 5 タスクシラバス 6 複合シラバス</p> <p>IV カリキュラム・デザイン 1 到達目標 2 時間配分 3 シラバス項目の配列 4 教授法 5 教材・教具 6 教室活動 7 評価</p> <p>V 教材分析（[できる日本語初級] を使って 1 全体の構成 2 各課の構成 3 各課の進め方（教室活動）</p>	<p>作題主幹 川端 一博</p>	
<p>7月9日 1:30pm~ 4:30pm</p>	<p><b>地域のニーズ1</b> 「学習ニーズ」を再考する—大規模調査の結果を参考に I はじめに；何故、教師や学習支援者は「学習ニーズ」を知る必要があるのか II 「学習ニーズ」って？ III 「生活の為の日本語—全国調査」から分かる事 IV 「生活の為の日本語」インタビュー調査からわかる事 V 「生活の為の日本語—浜松調査」からわかる事</p>	<p>学習院大学 文学部教授 金田智子</p>	8人
<p>7月16日 1:30pm~ 4:30pm</p>	<p><b>地域のニーズ2</b> 0 アイスブレイキング 1 これまでの講座の振り返り（一人一言） 2 伊勢崎の学習者のニーズのあぶり出し&amp;それらに対する今の活動の振り返り 2-1 これまでどんな学習者とどんなふうに接してきたか、うまくいった事、うまくいかなかった事を上げてみましょう。 2-2 現在接している学習者のニーズを考えてみましょう</p>	<p>元荒川国際交流協会 日本語講師、 コーディネーター 俵山（旧姓 渡部） 真由美</p>	8人

	<p>う。思いついたものからメモをして下さい。難しいものはとばして、どんどん次の項目に進んで下さい</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本人のニーズ</li> <li>2) 家族のニーズ</li> <li>3) 日本語ボランティアとしての貴方のニーズは？ 何を考えたいと思っていますか？</li> </ol>		
<p>7月23日 1:30pm～ 4:30pm</p>	<p><b>評価とは</b> 0 評価とは 1 評価のポジション 2 誰が誰を評価するか 3 テストを用いた評価 (1) テストの種類と実施時期 4 テストを用いない評価 (1) いつ、どうやって評価するか。 (2) コース開始前 (3) コース中 (4) コース終了時</p>	川端一博	9人
<p>7月30日 1:30pm～ 4:30pm</p>	<p>教材の見本作成 教材の分析 1) 『日本語これだけ』 第9課 2) 『できる日本語』 第12課 I 指導・支援方針 1) ボランティアの心得 2) 注意すべき項目（発音、活用、助詞、構造、意味） 3) 誤用の訂正 ・コミュニケーションの内容を優先する場合 ・話したり書いたりした内容をまとめる場合 4) グループ分けをしよう。 5) 進め方（120分） ①ウォーミングアップ→②前日の「学習の記録」チェック→③「これは日本語で何と言いますか？」→④「言ってみましょう」→⑤「話してみましょう」→⑥「やり取りをしてみましょう」◆ロールプレイ◆→⑦学習の記録「今日勉強をした事」</p>	ヤン・ジョンヨン	7人



<p>8月6日 1:00pm~ 5:00pm</p>	<p>教材の見本作成 2つのグループに分かれ、第1課(L1)、第2課(L2)を作成 L1グループ ①ウォーミングアップ ②前日の「学習の記録」チェック ③これは日本語で何と言いますか 身体名称→頭、耳、目、腕、膝、胃 ④言ってみましょう 症状の言い方→単語のチェック；頭が痛い、胃が痛い ⑤「話してみましよう」 [病院に行ったら何をするか?]→スクリプトの確認 ⑥「やり取りをしてみましよう◆ロールプレイ◆」 ⑤までの確認をした上で、友人に簡単な症状を話して、 適当な病院を紹介して貰う。 ⑦学習の記録「今日勉強をした事」 日本語 ※言い方・助詞・活用・漢字・言葉など L2グループ ①、② ③「これは日本語で何と言いますか」 「病院の名称」→内科、外科、眼科、耳鼻科 ④「言ってみましよう」 「時間の言い方」&amp;「程度/様態/オノマトペ」 ⑤「話してみましよう」 [症状を説明する] 代入練習を兼ねて、空欄に入れて いけば文になる ⑥「やり取りをしてみましよう◆ロールプレイ◆」 ⑤までの確認をした上で診察室で医師との会話の練習 をする。 ⑦学習の記録「今日勉強をした事」 日本語 ※言い方・助詞・活用・漢字・言葉など</p>	<p>川端一博</p>	<p>9人</p>
<p>8月20日 1:00pm~ 5:00pm</p>	<p>9回までの流れに沿って教材を作成。 L1 どんな病院が良いですか 内容が想像できるイラストの選択 学習者と支援者用の教材を作成 重要な表現 *あもう、ちょっと、教えてほしいんですけど・・・ *目がかゆいなら[ 眼科 ]が いいですよ L2 「昨日から熱があるんです/お腹が痛いんです」 内容が想像できるイラストの選択 ⑤考えてみようL2では[症状を説明できる]ように、 Q&amp;Aの空欄にいれていけば文になるようにする。 ◆お医者さんの質問に答えよう</p>	<p>伊藤健人</p>	<p>6人</p>

	1) どうしましたか 2) いつからですか 3) どんなふうに（痛い）ですか 4) 今までに大きな病気やけがをした事がありますか？ 5) いつも飲んでいる薬がありますか？ 6) アレルギーはありますか？		
9月3日 1:00pm～ 5:00pm	作成した教材(L1、L2)の検討、添削、仕上げ	ヤン・ジョンヨン	4人

## (10) 講座の評価

### ① 受講生に対するアンケート

研修会の受講者(18名)に対して研修終了後に以下の10項目に関するアンケートを実施し、11名の方から回答をいただいた。

- Q1 この研修を受けようと思った理由は何ですか？
- Q2 研修の良かったところはどこですか？
- Q3 もう1度受講をしようとしたら、改善を望むところはどこですか？
- Q4 この研修で学んだものは何ですか？
- Q5 もう一度受講しようとしたら、自分の取り組みを改善したい事はありますか？
- Q6 御自身の関わる日本語教育支援に足りないものは何だと思えますか？
- Q7 研修で学んだ事を今後の活動でどう生かしていきたいですか？
- Q8 別の機会があるとして、その研修で学びたい事は何ですか？
- Q9 ご自身が現在の活動を通して地域日本語教育における課題について自由にお書き下さい。
- Q10 生活者としての外国人に対して必要と思われる日本語教育以外の支援は何だと思えますか？

### 【アンケート回答のまとめ】

#### イ) 研修参加の目的(Q1):

スキルアップが8名、教材作りに役立てたいが2名であり、本研修の目標である教材作りを通してのスキルアップに賛同して研修会に参加している。

#### ロ) 今回の研修の良かった点、習得したこと及びその活用(Q2, Q4, Q7):

良かった点として、教材作り及び日本語教育についての専門的な講義が受けられた事、教材分析と評価について新しい情報を得られた事があり、地域に暮らす外国人に密着した教材で学習者に合った活動が重要である事、ニーズに合った題材、目標の設定、教材作りの大切さ、難しさ、の再認識をした点である。

受講者自身の活動の今後への活用としては、生活密着の会話中心の授業展開、学習者の視点に立つての授業、学習者のニーズを充分把握して教育活動に生かす事、また、作成した教材を日本語教室で活用するとともに独自テーマの教材の作成がある。

#### ハ) 改善要望事項(Q3, Q5):

講義内容に重複した感があるという指摘及び教材作りにもう少し時間をかけた日程設定の要望。

節電の影響で勤務先の休日の変更があり研修に出席できなかったため、日程設定の柔軟な対応の要望。

二) 今後の研修機会に対する希望(Q8):

- ・初級レベルの日本語教育指導方法。
- ・日本語教育指導のスキルアップとして、講師を中心としつつ設定テーマについて受講者が自分の意見を述べ、議論を行うことで自身の問題点を把握するという研修の進め方。

② 実施主体からの研修内容結果評価

第1回から第8回までを各講師の先生方による講義を行い、第9回から第11回にて教材作りに挑戦した。経験に基づいた理論的な面を学んだ後に実際の教材作りに入るという構成は、単なる教材作りではなくそれを通して日本語教育指導者としてのスキルアップを図る上で有効であったと言える。作成した教材は受講生の日本語ボランティア活動での使用成果も期待できると思われる。

また日本語教育において、日常生活での日本の習慣常識、文化を側面より支援できる内容である事が大切である点の認識も深めることができたと考える。

残念な事は、土、日曜日が節電の関係で出勤日となり、そのため受講者数に影響が出てしまった点が挙げられる。日程設定の柔軟性は今後の課題と言える。

当初の目的である生活に密着したシラバス、教材、指導法を学び、「生活者としての外国人」が直面する課題を解決するための対話中心のテキスト(教材)作りを通して、ボランティア講師のスキルアップを図る事については、目的をほぼ達成できたのではないかと考える。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

ここ伊勢崎市は群馬県で最も多くの外国人が居住し、現在実施している年3回(1期10日間で年3回実施)の当NPO法人が担当の日本語教室では多勢の受講生(毎期の定員100名)が受講している。この日本語教室は国際交流協会からの委託事業で日曜日(午前、午後)の活動であるが、東日本大震災による節電にて企業等の休日が変わってしまった事から平日、夜間の学習要望が多い実情がある。

この要望に応え、より幅広い日本語学習機会の提供となるよう、ボランティア養成講座を開催しボランティア講師の増加及び講師のレベルアップを図ることで、平日及び夜間も日本語教室活動が出来る体制にもっていくことを計画したい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

- \* 伊勢崎市国際交流協会主催の日本語教室の委託事業としての連携の強化。
- \* NPO法人多言語研究所(インターナショナル コミュニケーション スクール)への日本語教育支援による連携。

② 研修後の人材活用

- \* 今回受講したボランティア講師について、各地域(群馬県前橋市、高崎市などの地域)の日本語教室、日本語学校での活用。
- \* 当NPO法人が受託の伊勢崎市国際交流協会主催の日本語教室での活用。

(12) 今後の課題

\* 地域の国際交流協会などで実施の日本語教室は既存のテキスト中心の教育であるが、それに加え、今回の研修のポイントでもある地域密着の教材作成及びその中で受講生のニーズに合った題材、目標を設定する教室運営を今後の活動に生かして行く事。

また日本語教育講師のスキルアップを図る勉強会を企画し実行して行きたいと考える。

【写真】研修



以上